

貯金箱への期待

神奈川県・聖園女学院中学校 2年 林 春薫

私の部屋には三つの貯金箱がある。その三つの貯金箱にはそれぞれ違った役目がある。一つ目の貯金箱は慈善用、二つ目の貯金箱は貯蓄用、三つ目の貯金箱は投資用。このお金の分け方は以前叔父にもらった*『金持ち父さん』の本の内容を実践したものだ。この方法でお金を分け始めてから、私のお金の使い方が変わった。

まだ貯金箱が一つだった頃のこと。私は毎月一日にお小遣いをもらうことになっているのだが、貯金箱に入れる暇もなくお金を使ってしまっていた。珍しく貯金箱が利用されるのは買いたい物を買うまでの短い期間だけで、そのとき貯金箱とは私にとって一時的にお金をためておくだけの意味のない物だった。そして毎月学校で行われている募金の日には、お小遣いをもらった瞬間に使ってしまったため少ししかお金が残っていないこともあった。こんなお金の使い方ではこれから先の自分がどうなってしまうのか。心配に思ってはいたがどうすればよいのか分からないまま、次の月にも同じ事を繰り返してしまっていた。

『金持ち父さん』の本に出合ったのはまさにそんなときだった。たった二つ貯金箱を増やすだけでいい……それだけでお金が管理できるようになるのなら、やってみただけの価値はあるだろう。そう思った私は早速実践してみた。まず貯金箱を用意するにあたって、自分でルールを決めてみた。月々もらうお小遣いの半分を二つ目の貯金箱（貯蓄用）に入れる。そしてもう半分は支出と残金をメモしながら無駄遣いをしないように心がける。財布にお金が入っているとすぐに使いたくなってしまう私は、無駄遣いをしないための工夫もした。財布にゴムをかけたり、ポーチの中にしまったりする。そうすれば財布を出すたびに自分がどれだけ無駄遣いをしているのかが自覚できるし、財布を出すのが面倒なのでちょっとした無駄遣いの回数も減る。この方法も本で紹介されていたもので、私にはぴったりの方法だった。いつの間にか私の支出は今までよりもぐっと減り、残金を一つ目の貯金箱（慈善用）に入れられる余裕もできるようになった。今では支出を減らしたいという気持ちが強くなり、ほとんど無駄遣いをすることがなくなった。

三つ目の貯金箱（投資用）について、初めは必要ないのではないかと思っていた。

投資という難しそうな言葉から、中学生の私には関係のないものだろうと思っていたからだ。けれどもいろいろな本を読むにつれて、この三つ目の貯金箱こそが私の将来の可能性を無限に広げてくれるものだということが分かってきた。現在、私は三つ目の貯金箱を《お金を増やしてくれるお金(資産)》の貯金に使っている。例えば私の場合、集めた旧札や外貨(ドル)などを入れている。旧札は現在の価値が千円分でも数十年後には珍しいお札としてもっと価値が上がるだろう。けれどもこの計画は何十年もかかってしまうわりに、大した利益が見込めない。そこで、私はもう少し効率の良い外貨に注目している。為替レートは毎日変わっているし、急な暴落などのない限り少しずつでも確実に利益を得ることができる。そして将来は株などにも挑戦できるように、今から少しずつお金をためていく予定だ。

ここまでの貯金箱の分け方や無駄遣いをしないための方法などはすべて『金持ち父さんシリーズ』の内容を実践したものだ。『金持ち父さんシリーズ』の著者ロバート・キヨサキにとって、金持ち父さんは親友マイクのお父さんだったそうだ。私に『金持ち父さん』の本を教えてくれた叔父は、会うたびにお金や将来のことについていろいろ教えてくれる。そして毎年お年玉にはドルをくれて自分で額を決められるようにしてくれる。そんな叔父は私にとっての金持ち父さんだ。

私は将来、金持ち父さんのように三つ目の貯金箱を大いに活用してお金を生み出してくれるお金をたくさん持った人になりたい。

